



鈴鹿の風

2008.9

第4号

「独立行政法人 国立病院機構 鈴鹿病院」ニュース

<病院理念>

- 私たちは、国民に奉仕する立場から、政策医療である筋ジストロフィー・重症心身障害・神経難病の分野において、患者様本位で質の高い専門医療を提供します。
- 私たちは、充実した医療と健全な経営を心掛け、常に意識改革を怠りません。



伊勢平野を見下ろす鈴鹿山系の中央入道ヶ岳の麓に古くから鎮座し猿田彦大神の総本宮であり、「伊勢国一の宮」に定められています。

CONTENTS

1/2

ごあいさつ お待たせしました、これからです。
トピックス 「臨床工学技士」は医療機器のスペシャリスト!

3/4

看護だより 重症心身障害者病棟(10病棟)での取り組み / 医局短信～臨床研究部
療育通信 筋ジストロフィー病棟における「パンの花粘土制作活動」の取り組み

5

外来診察担当表 / 交通案内 / 編集後記

ごあいさつ

お待たせしました、これからです。

病院長 小長谷 正明

長い間、お待ちどうさまでした。新病棟を建築してくれる会社が決まりました。株式会社・浅沼組です。

7月28日、体温を超えるような猛暑の最中の日でしたが、突然の恵みの雨で気温が下がったと思ったら、その時に入札で建築会社が決まりました。で、私や事務長さんをはじめ建築プロジェクトに携わってきた職員一同の気分もすっとさわやかになりました。本来でしたら、とうに完成している筈なのですが、不祥事や姉齒事件のあおりで設計計算のやり直し、工事費の上昇、要路の人のキャラクターがおかしかったりと、様々なマイナス要因で遅れてしまいました。これからは順調に行きたいものです。

工事を行う浅沼組は古い歴史があり、江戸時代は奈良・郡山の宮大工で、今も正倉院の修理等もしています。もちろん、近代的な工事もしており、ユニバーサルスタジオや関西空港のターミナル、東京湾の海ほたるの橋などを手がけています。病院建築でも、京都大学病院の外来診療棟や国立がんセンター新病棟等を完成させており、鈴鹿病院も安心して任せられると思います。

工事は、段階を経て行うこととなります。まずは看護師宿舎の前の駐車場に、厨房等のサービス棟の新築工事と、旧6病棟を改築して7病棟の患者さんに移動してもらいます。そして空いたスペースに新病棟を建築という段取りになります。工事が始まると、重機を始めたくさんの車や工事関係の人が出入りします。加佐登地区をはじめ周辺のみな様にも迷惑をおかけしますが、よろしく御願い致します。患者さんや職員の方々もくれぐれも安全に気をつけて下さい。

8月の初めに、国立病院機構で一足先に新病棟が完成した金沢の医王病院と富山病院を見学してきました。ともに障害者医療を中心としている病院で、大きなフロアプランだけでなく、病棟細部の作りや工夫・配慮等を勉強し、参考になりました。

それにしても、広々とした新病棟の色とにおいは良いものです。待ちどおしいですね。
(9月3日、加佐登神社にて地鎮祭を行いました。)



トピックス

「臨床工学技士」は医療機器のスペシャリスト!

臨床工学室 臨床工学技士 村田 武

鈴鹿病院臨床工学室を紹介するに前に「臨床工学技士」とは何かという事から説明しましょう。近年、医療機器は機能や操作が複雑化し取り扱いが難しくなっています。そこで従来、医師や看護師が医療機器を取り扱っていましたが、専門的な教育を受けた技術者が医療機器を取り扱うようになり、医療機器を専門に扱う資格として昭和63年に「臨床工学技士」という国家資格が制定されました。臨床工学技士の活躍により患者様に高度な医療機器を用いた安全な医療が提供できるといえるでしょう。鈴鹿病院では人工呼吸器使用患者の増加に伴い人工呼吸器の保守管理を行うために平成17年9月に臨床工学室が設置され臨床工学技士が配置されました。もちろん病院には人工呼吸器以外にもたくさんの医療機器があり日々患者様の治療に使用されています。点滴をする時に使用する輸液ポンプ、吸入をする時に使用する吸入器、心臓や呼吸の働きを観察するモニター装置などの医療機器管理も臨床工学技士の業務のひとつです。



それでは人工呼吸器についてお話をします。人工呼吸器とは呼吸ができない患者さんに呼吸をさせる機械です。人は24時間休む事なく呼吸をしているので人工呼吸器も24時間休む事無く動き続けています。よくテレビドラマで人工呼吸器を使用している患者様というのはベッドに「寝たきり」というようなイメージですが当院ではかなり違います。ベッドに「寝たきり」では行きたいところへ行く事ができません。それは患者様にとって大変苦痛な事です。当院では持ち運べる人工呼吸器を積極的に使用する事によって患者様が行きたいところにできるだけ自由に行けるような環境作りを行っています。人工呼吸器という医療機器を使って患者様をサポートする事も臨床工学技士としての私の大事な役割です。患者様が人工呼吸器を使用しながら車椅子で外を自由に動き回って私に声をかけてくれたり、友達やお世話をしてくれる看護師さんやスタッフの事を教えてくれたりする時間は私にとってとても楽しい時間です。

看護だより

重症心身障害者病棟（10病棟）での取り組み

10病棟 副看護師長 堀越 あゆみ
同 池村 幸代

鈴鹿病院第10病棟は、自ら訴えることが困難な重心の患者様が入院しています。また自力移動困難な患者様もみえますが自力歩行できる患者様もみえます。行動範囲も広いため病棟のプレイルームは十分な広さが確保され自由に移動することができます。



日常生活の援助では、摂食・嚥下と口腔ケアに重点を置き障害に応じて関わっています。ケアはスタッフ間で話し合いを持ちながら、個別性を重視し、患者様の成長発達や機能維持に向けて取り組んでいます。口腔ケアでは磨き方のマニュアルを作成し、電動歯ブラシやスポンジブラシなどを用いて、虫歯や歯周病、歯並びや咬み合わせの悪い患者様に口腔内の保清・保湿を行い感染予防に努めています。また当病棟では35名

の方が経口摂取可能であり、摂食・嚥下機能の維持向上のために、自力摂取しやすいようにテーブルや食器のセッティングを行ったり、咀嚼を促すための訓練を行ったりしています。また食事時の姿勢を整えるため、椅子やクッションチェアを使用しています。

このように日常生活の援助を通して患者様との関わりを多く持ち、非言語的コミュニケーションの場としリラックスできる環境を提供できるように取り組んでいます。これからも健康的で楽しい日常生活・入院生活が送れるようスタッフが力を合わせて取り組んでいきたいです。



医局短信～臨床研究部

臨床研究部長 久留 聡

本研究部は平成17年1月1日に発足致しました。主な目的は、診療部門との密接な連携のもとに、主として神経・筋、呼吸器、小児神経疾患に係る臨床活動を通して提起される諸問題を究明し、その成果を臨床面に還元することです。呼吸器科・脳治療研究室では呼吸器難病の治療研究、小児神経科的疾患治療研究室では発達期における神経疾患の治療研究、神経・筋治療研究室では慢性神経難病の病態や患者のQOL等についての研究を行います。

当院は入院患者の約3分の1にあたる90名前後の患者が人工呼吸療法を行っていることもあり、慢性神経疾患の呼吸管理に関連する様々な問題を解明することが一つの大きな目標となっています。また積極的に病理解剖を施行しており、愛知医科大学加齢医学研究所の橋詰教授の指導のもと臨床病理学的な研究も行っています。院内の神経病理検討会のほか、年に1回近隣の施設と協力して非特CPCという研究会を開催しています。内科学会や神経学会をはじめとする各種学会やスモン、筋ジストロフィーの班会議に参加し、研究成果を国内外の雑誌に発表するなど積極的な活動を行っています。

今後とも本研究部の活動にご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

珊瑚刺桐(サンゴトウ):鮮やかな赤い花が特徴的です(院内中庭にて撮影)

療育通信

筋ジストロフィー病棟における 「パンの花粘土制作活動」の取り組み

保育士 松田 裕美子



「パンの花粘土」とは、小麦粉に防腐剤、乾燥剤、ボンド等を主に含めた粘土です。この「パンの花粘土」を用いる事により、花はもちろんのことアイデア次第で色々なものを作ることができます。普通の粘土よりもずっと柔らかい「パンの花粘土」は、手指の力の弱くなった筋ジストロフィー患者さんでも容易に形を作ることができます。また、粘土に鮮やかに色付けする事ができるので、作品を目で見て楽しむこともできます。

現在、デュシェンヌ型筋ジストロフィーや筋強直性ジストロフィーの方を中心に、6病棟ホールで制作活動を行っています。一般の方向けに「パンの花粘土教室」を開いている講師の先生がボランティアとして月1回病棟に来てくださり、様々なアイデア・アドバイスを頂いているおかげで、作品の幅がずいぶん広がってきています。また患者さんも先生が来られる事をとても楽しみにして

います。そして、年に1回、先生が出展されている個展に参加させていただき、2006年には「社長賞」という賞をいただくことができました。これが励みとなり、患者さんたちはその後も意欲的に制作活動に取り組んでいます。ぜひ鈴鹿病院にお越しの際は、患者さんたちが取り組んだ「パンの花粘土」作品をご覧になってみて下さい。

お知らせ



平成20年7月7日～8日に行われた北海道洞爺湖サミットのロゴマークに、当院神経内科通院中の近藤敦也さん（三重県立特別支援学校北勢きらら学園C8代表）らのグループの作品が採用されました。1月に総理大臣官邸で行われた表彰式に電動車椅子で参加された近藤さん。ロゴマークには「地球が、いつまでも緑が溢れる美しい星であってほしい」という願いがこめられているそうです。



外来診療担当表 (2008年9月1日 現在)

	月	火	水	木	金
神 経 内 科	小長谷	酒井	田村	小長谷	久留
内 科	奥村	木村	安間	安間	野口
循 環 器 科	奥村		安間	安間	
小 児 科	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)
整 形 外 科		田中 (午後 装具外来)			田中
リハビリテーション科					田中
歯 科	清水		松村	鈴木	
皮 膚 科		武市			

- ◆ 外来受付は8:30~11:00、診療開始は9:00からです。
- ◆ 歯科は身体障害者の方に限ります。
- ◆ 装具外来は火曜日の13:30から整形外科で受付いたします(あらかじめ電話予約のうえお越し下さい)。
- ◆ 小児科外来は担当医とご相談のうえ、ご予約下さい。
- ◆ 土曜日、日曜日、祝祭日は休診とします。



交通案内

- ◆ JR「加佐登」駅より徒歩8分
- ◆ 東名阪「鈴鹿」I.C.より車8分
- ◆ 近鉄「平田町」駅よりタクシー15分
- ◆ 三重交通バス(荒神山口行/椿大神社行)
「加佐登神社前」下車すぐ
- ◆ 鈴鹿市西部地域コミュニティバス
椿・平田線「26加佐登神社」下車すぐ

看護師募集

ぬくもりと安心の看護の提供を
一緒にしてみませんか！

即、お電話を！随時受け付けています。

(看護課)

◆ 発行

平成20年9月

独立行政法人 国立病院機構 鈴鹿病院

〒513-8501

三重県鈴鹿市加佐登3丁目2番1号

Tel. 059-378-1321(代)

Fax. 059-378-7083

<http://www.hosp.go.jp/~suzukaww/>

編集後記

本誌「鈴鹿の風」が創刊され一周年を迎えます。当院に勤めてまだ数年の私が広報誌編集委員に選ばれたことの驚き、慣れないことへの戸惑い、なんとか創刊までこぎつけた目の喜びが鮮明に思い出されます。そのころの気持ちを忘れずに積み重ね、これからも皆様にも愛される広報誌になるようがんばってまいりますので、よろしくお願いたします。(波田佳典)